

現場の輝きを取り戻す

卷之三



總括

「夫婦の関係と言つゞ」と要注者の良好なパートナーシップ再構築」だった。最近は離婚も多いから云々族に言われた。だから「夫婦の例えは使わない」とパートナーシップ再構築案に会場を笑わせながら、国土交通省の佐藤直良官房技術審議官は、「夫婦に代わるもっと強固なパートナー・シップが必要だ」と、パートナーの相手である地方建設業界に強いエールを送つた。

実はプロック会議に先立つて行われた地域懇談会で、全国建設業協会が提案し続けた議題がまさに「発注者による適切な指揮がされてい

国交省「企画双方ともに、言及したのは、そもそも問題が深刻化していることを証明しているからにほかない。」

パートナーシップ再構築

「これを取り戻す」と題されたこの記事は、主に「パートナーシップ再構築」についての議論である。左側の本文では、技術者に対する不満や意見を述べる一方で、右側の本文では、技術者と建設業者が協力するための提唱や実現可能性について述べられている。

左側の本文では、技術者の立場から、建設業者に対する不満や意見が述べられる。建設業者は「過重な書類の作成」「提出を求められる」「工事成績評定の影響を考慮して意見も言えない」といった状況に直面している。一方で、技術者は「仕務性を指摘する声が相次いでいた」など現場での不満や意見を述べている。

右側の本文では、建設業者としての立場から、技術者に対する認識や活動について述べられている。建設業者は「業務作業の増大を理由として十分通用してしまった」（業界関係者）とし、現場を通じた発注者とのコミュニケーションを強調している。また、技術者との関係改善のための提唱として、「県市町村工事で」として「現場を通した発注者とのコミュニケーションを強化する」という方針が示されている。

応する「ワントーレスボン」—レスポンスの導入による受注者側の効果を強調し、國交省のパートナーシップ、た。再構築への道筋を示す回答　ただ、始まりばかりの
の一つでもあった。
07年度、全国で最低80件を目標に地方建設業界
から大きな期待が寄せられ、たワントーレスボン
いと、國交省は「発注者側
に当初1日で返事をする」というわけはない。わざわざ
が負担になると心配も、はなし)補助員への徹底
あったが、逆に時間の余裕
ができたと、組織の風通しを明ける。
も良くなかった。担当者も問
い合わせに対する懸念がで
きた」と胸を張った。
メリットは発注者といひ
まいりない。
九州地方整備局の吉田義
則企画部長は、「受注者も
返事の期日が明確になった
ことで工事の段取りがつけ
やすくなり、工程管理によ
つて収益が上がったとの報
告を受けている」と述べ、こ
の間、建設業界が指摘する田沼の
片務性。

19年 11月 8日

建設通信新聞